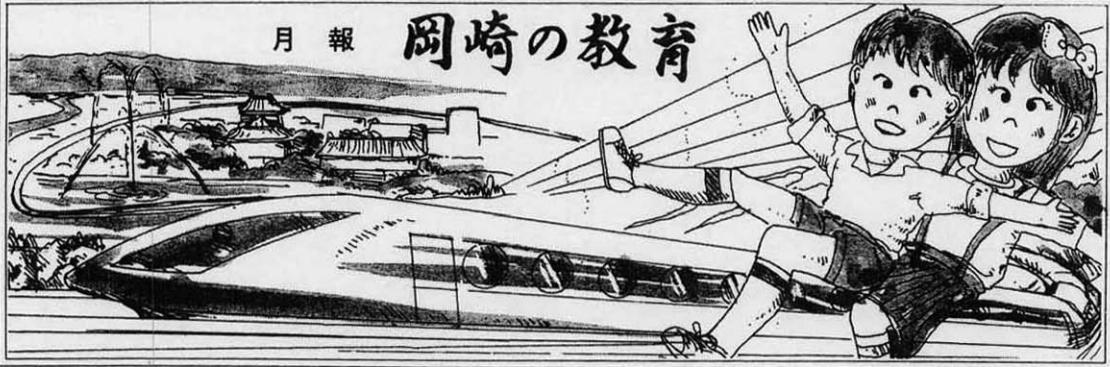


月報 岡崎の教育



3月号

平成2年3月1日

発行／編集

岡崎市教育委員会

朝、バス停から砂川沿いに歩く。
落のとうが浅い緑色の花穂を出し
紫陽花の蕾もふくらみ始め
路傍にも土手にも春の息吹き。

「先生、おはようございまあす」

元気な声に振り向くと

「先生つて小柄だつたんだね」

いつのまにか見上げる程に成長した子が
ふとつぶやく。
幼い頃、寂しがり屋だった姿は
もうどこにも感じられない。

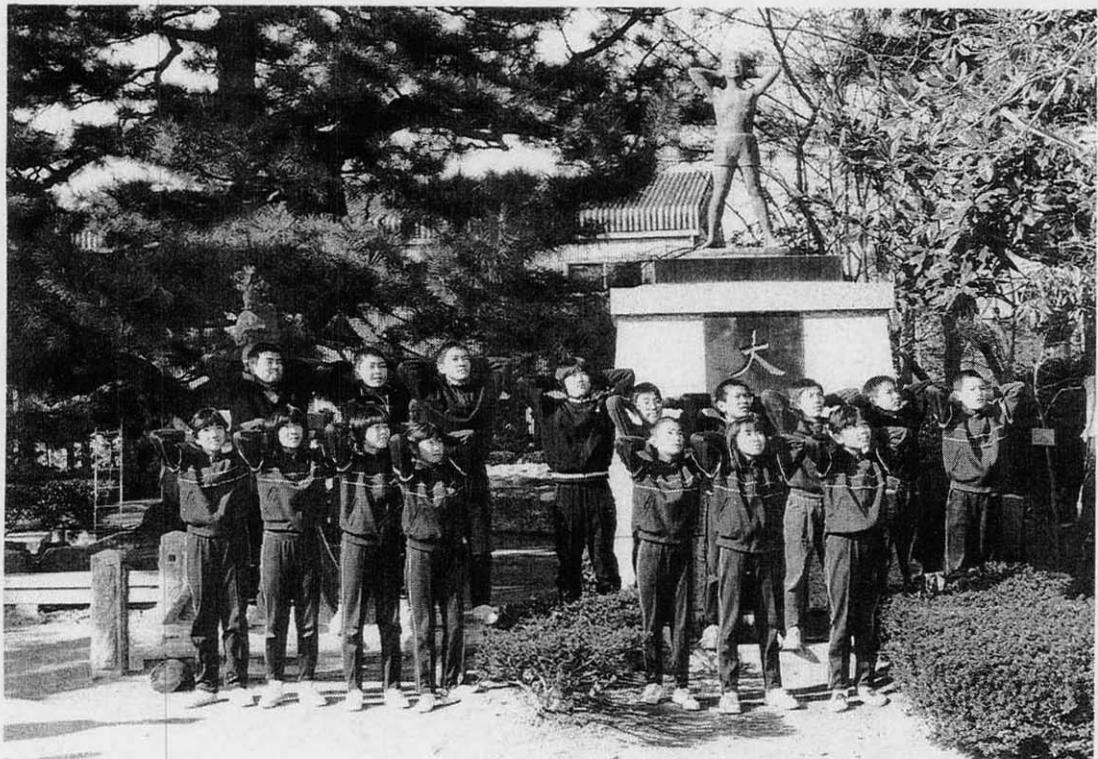
あなたの瞳に写し出される未来は
心の躍ることもあるれば

夢の打ち碎けることもあるだろう。

そんな時
あなたと一緒に笑い合えたら
胸に抱きしめて一緒に泣けたらと思う。

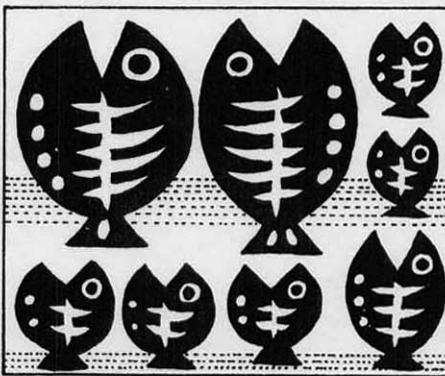
あなたの心の中に
私の存在する場があるのなら。

（巣立つ子に）



（大志はるかに－福岡小）

ケラ(図)は畠や水田の土手などでよくみかけるコオロギ類に近い虫である。通常はやや湿った土中の浅いところにトンネルを掘って生活している。土中生活の適応から、体は円筒形状で、前足は土を掘るためモグラの手のようになつてゐるし、中足と後足は短く、体を前へおしゃる役割をしていて、あたかも小形のブルドーザーのようである。ケラは形はモグラに似ていてもモグラ



- 教育隨想 -

ケラの五能

大平仁夫

ラの五能」と呼び、あれもこれもと手出しをして器用に物事をこなすが、どれも深くできるものがない人のたとえによく用いられている。

今の世の中を眺めていると、どうも「ケラの五能」のような生き方をしている人が多いように思われる。このような情報過多時代と技術革新時代に生き残るために、あれもこれもと手出しをして少しずつでもやっておかないと、社会や

実際に判明したのはごくわずかな範囲にすぎなく、実体の輪郭がみえてくるのは、さらに先のことのように思われる。

このように、一つのことを続けてやつていても、実体を見極めることは容易ではなく、研究を完成させるには、人生はあまりにも早く過ぎ去ってしまう。しかし、それを通して、他の人がみられないコメツキムシの世界をわずかでもみることができる。さまざまな経験もすることができたのは幸せであったと思つてゐる。「ケラの五能」のような毎日を過ごして、人生は何の風情も妙味も感することなく、風のようにあつて、いう間に吹き抜けて行つてしまふに違ひない。

「心ここにあらざれば見れども見えず、聞けども聞こえず」という言葉があるよ。しかし、どのような世の中であつても、うに違ひない。

「心ここにあらざれば見れども見えず、聞けども聞こえず」という言葉があるよううに、自ら信ずるところに従つて求めようとするものを深めて行けば、自然に本質なものとそうでないものとの整理ができる。おぼろげながらでもその実体の輪郭

(岡崎国立共同研究機構・生理学
研究所技術課長・農学博士)

特別活動指導員

金子一元

羅針盤

「同じ動物なのに、どうしてヘビだけ飼つちゃいけないんですか。」「みんながつかまえたカエルをエサにするのはかわいいそうです。」「ヘビはかわいそうではないですか。」「メダカ、ドジョウ、雨蛙、トカゲ、ヤゴをはじめたくさんの生物を飼っている三年生の学級に、男子がつかまってきたシマヘビが持ち込まれた。えさはどうする、もしにげたらなどといふ次元から、せまい所よりもっと広い所に放してやつた方がヘビにはよい、という生命に関わるところにまで話が進んだ。だが、結着は着きそくはない。多数決でという意見が出た。

「何で多数決で決めるんですか。意見で決めたらいいと思います。」

この発言が、この学級会の方向を決め、この日の学級会は時間切れになつた。議論を尽くす中で子供たちは知恵を絞るのである。

その後二時間の討議を重ね、子供たち

ふるさとシリーズ

この人に聞く

養
鶏

杉江朝昭氏

「とにかく鶏が好きなんですね。朝早く

から嬉々として鶏舎へ行くんですよ。」

「とにかく鶏が好きなんですね。朝早く

から嬉々として鶏舎へ行くんですよ。」

「とにかく鶏が好きなんですね。朝早く

から嬉々として鶏舎へ行くんですよ。」

「とにかく鶏が好きなんですね。朝早く

から嬉々として鶏舎へ行くんですよ。」

「とにかく鶏が好きなんですね。朝早く

から嬉々として鶏舎へ行くんですよ。」

すが、今は一万五千羽必要です。それに公害問題ですね。土地を借りた頃は感謝されていたのに、後になつて苦情を言われたとこもありました。ですから、鶏舎の場所も上衣文から大幅額田へと移り、現在は少年自然の家近くの山中になります。

一番の苦労は、昔も今も、「いかにして経営を成り立たせるか」ということのようだ。話の端々に「経営」という言葉が出てくる。経営上の問題点を尋ねた。経営の価格が不安定なことです。決まりた価格がないために、人を何人雇つたらよいのか、何羽飼つたらよいのかつかみきません。アメリカでは、養鶏業をギャンブルと言つてゐるそうです。組合員は、人件費の節約など涙ぐましい努力をして経営を続けています。卵価が上がつてくれるといいんですか? 三。好きでないとやれませんね。

現在の仕事を天職と受け止め、養鶏に情熱を傾けていらつしやる杉江さんの生きる姿に触れた思いがした。

「鶏の健康状態には気を遣つています。一羽一羽を見ていくと元気のない鶏はすぐに分かります。ひ弱に見えるんですけど。鶏の健康を保たせるためには、換気が一番大切ですね。また、一週間も十日間に一日、産卵を休ませることもあります。その方が産卵がよいですね。」

「養鶏は思つてはいた以上に大変でした。採算基準が変わつてきますからね。昭和三十八年まで伊賀町にあつた種鶏場に勤めていましたが、自分で採卵養鶏がしたくなり、今の道に入りました。」

「養鶏は思つてはいた以上に大変でした。採算基準が変わつてきますからね。昭和三十年代は千羽いればよかつたので

ですが、今は一万五千羽必要です。それには夢や希望についてお聞きすると、事業を拡張することです。十万羽養鶏をめざしたいですね。しゃにむに生きてきた私には、この道しかありませんから……」

と、淡々と答えられた。

息子さんが後を繼いでいらっしゃることに触ると、きつぱりとした口調で、

「ありがとうございます。しかし、私が

ら後を継ぐように言つたことはあります。自分の道は自分で決めればよい

と思ひます。私も自分で決めました」とおつしやつた。自分の道を真剣に歩んでこられた方の信念を感じた。

「頭がでつかい。」

「目をつむつて生まれてくる」とおつしやつた。自分の道を真剣に歩んでこられた方の信念を感じた。

(生年月日 昭和七年三月十三日)
住 所 岡崎市上衣文町宝辺野八番地

夢や希望についてお聞きすると、事業を拡張することです。十万羽養鶏をめざしたいですね。しゃにむに生きてきた私には、この道しかありませんから……」

はへとへとになつたという報告を受けた。

目と手を使つて考える授業

理科指導員

高橋啓三

実物そつくりの胎児の模型を前にして、生まれてくる赤ん坊のからだの特徴を考えている。

「頭がでつかい。」

「目をつむつて生まれてくる」とおつしやつた。自分の道を真剣に歩んでこられた方の信念を感じた。

「わあ。かわいい。」

と、歓声がとびかう。生徒は、一気に児の世界に入り込んでいく。中学二年「血液循環」での導入である。「一メートルはありそうな胎児の血液循環モデルが提示された。生徒は、今見た赤ん坊と胎児のイメージが重なり合い、胎児の血液循環を真剣になつて考え始めた。血液の流れを指でたどつていくと、どうしても心房で動脈血と静脈血が混ざつてしまふのである。

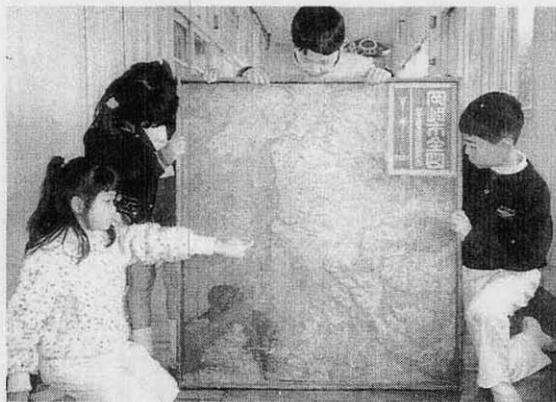
実物や模型・モデルを使うと、目で見て、手で触つて確かめ、考える学習ができる。二月号「この人に聞く」の記事中、畔柳謙氏は、畔柳謙氏の誤りでした。ここにお詫びし、訂正させていただきます。

お詫び

二月号「この人に聞く」の記事中、畔柳謙氏は、畔柳謙氏の誤りでした。ここにお詫びし、訂正させていただきます。

母校との絆

今に生きる卒業生の贈りもの



▲ 第13回卒業生A組共同製作による2万5千分の1の岡崎市の地形模型である。

なかなか頑丈に作られており、今も教材として役立っている。

30年前に6年生が卒業を記念して作成し、学校に残した。授業参観に来た親が、自分の子どもがその地形模型を使って勉強しているのを見て、家へ帰ってからそのことを子どもに話し、当時を懐かしんだ。

〈山中小〉

三月、卒業の季節がやって来た。

今年もまた、九千余名の児童・生徒が学び舎を巣立つて行く。それぞれの思いを胸に、確かな足跡を残して。

その足跡の一つに「卒業記念」がある。過去幾多の卒業生が残した卒業記念は、卒業生と在校生を結ぶ絆であるといえる。また、それが学校の新しい伝統やシンボルとなっている場合もある。

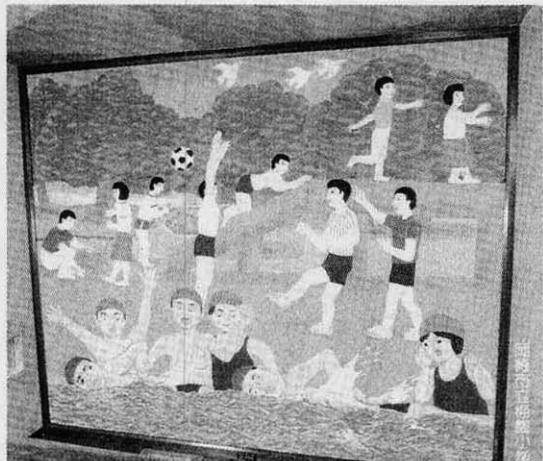
こうした卒業記念の中で、今なお、子どもたちに受け継がれ、引き継がれているものを調べてみた。各学校にお願いしたアンケート結果から、主なものをここに紹介する。



▲ 卒業記念として、4人から6人で共同制作した大きな鬼瓦62点。1つ平均60kgの粘土を使用して作ってある。

設置も生徒たちの手で行った。

〈竜南中〉

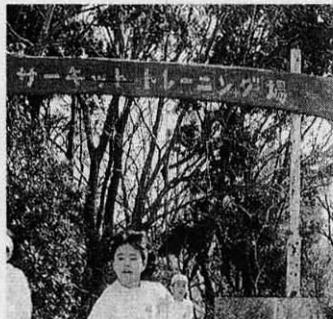


▲ 昭和61年度制作の四季をおりこんだ縦3m 80cm、横4mの大壁画。

これを、玄関に入った階段の踊り場に取り付けたが、この壁画のおかげで、玄関付近が明るくなり、より一層活気に満ちた学校となっている。〈梅園小〉



▲ 昭和62年度の卒業生が制作した。各学級1冊ずつ本を決め、その本の場面をフェルト布で作った黒板大の布絵本である。低学年の児童が喜んで読んでいる。〈根石小〉

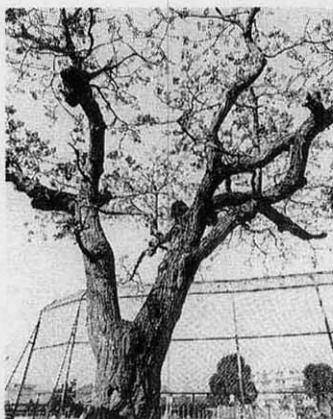


▲ 運動場南斜面のトレーニング場。クマザサの生い茂る荒れ地であったが、昭和42年度に、生徒・職員一丸となってトレーニング場として整備した。第20回の卒業を記念して、ローマ数字で20をイメージしたシンボル塔も作ったが、鉄製の塔は腐食したため、撤去されて、今はない。〈甲山中〉

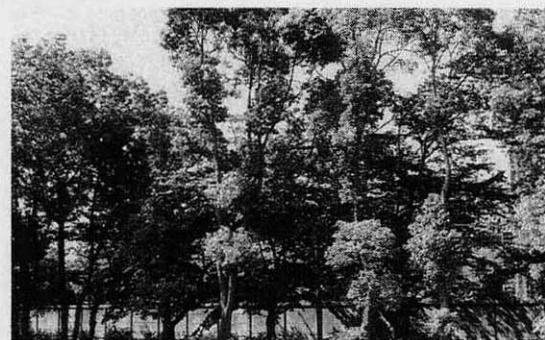


▲ 昭和56年頃、大きな古タイヤを集め、中部電力の協力を得て、タイヤ塔を完成させた。子どもは高いところが好きなので、放課になるとタイヤ登りをして遊ぶ。三島アスレチックランドの中でも自慢の人気遊具。

〈三島小〉



▲ 開校時に植栽されたこのセンダンの木は、校地・校舎が変遷しても、この木だけは、八十年不動で学校の歴史を物語っている。学校の象徴として職員・児童はもとより、地元の人たちも大切に育ててきている。〈六南小〉



▲ 開校当時に植えられ、校舎北側にそびえているクス。当時は紡績工場の織機がフル運転をしており、そこから飛んでくる綿埃は子どもの健康によくないから、それを防ぐためにと、早く育ち、大きく枝を張るこの木が植えられた。今は緑の葉の間から静かな工場の壁が見え、小鳥がさえずるほどの大樹となった。〈南中〉



開校第一回の卒業生が、卒業記念にみかんの木を植えた。開校時は、緑も少なく実のなる木はほとんどなかった。「実のなる木がほしい」という卒業生の要望で、二十本のみかんの木が取り寄せられ、六年生全員で記念植樹をした。今では、四年の理科の教材でアゲハチョウの幼虫をみかんの木に取りに行く光景が毎年見られる。本年度は、五百六十個のみかんを収穫した。みかんと一緒に収穫されたキユウイ六百五十個も運動場に展示し、収穫祭を開いた。〈小豆坂小〉

●個人研究の部

平成元年度教育研究論文入選者

最優秀賞

氏名	学校名	教・領	研究主題
酒井久男	竜美丘	教全	自然の妙趣に感動できる子供の育成
山本照司	竜海	体育	運動の楽しさを味わう体育学習

優秀賞

橋本みどり	連尺	国語	一人ひとりの豊かな読みをめざして
野々山こす江	井田	〃	書き綴ることにより生活を高める子供を目ざして
河上真一	生平	〃	豊かな表現力で詩のある生活を
小木曾祐子	矢東	〃	認識力・表現力を育てる作文指導
寄田加津子	福岡	書写	基本点画に注意して正しい文字を書かせる指導
岡田幸夫	梅園	社会	分かることを育む地域教材の開発
石井洋	緑丘	〃	確かな見方・考え方を育てる社会科の授業
清水良隆	矢西	〃	自ら進んで取り組む社会科学習
増沢徹	小豆坂	〃	主体的に追求し、考えを深める社会科学習をめざして
井村峰子	北野	〃	こっこ活動の深まりをめざした社会科指導
中川順子	梅園	算数	学ぶ楽しさのある授業を目指して
石川新史	愛宕	〃	学習意欲を高め、個を生かす算数科の授業
太田恭子	上地	〃	学級づくりを基盤とした算数の授業
天野道晴	井田	理科	一人ひとりの個性を伸ばす理科学習
宇都宮和	木宿	〃	音のイメージの深まりのために
田中俊男	六北	〃	豊かな体験から学ぶ
小森典子	矢北	音楽	郷土の「わらべうた」をとりいれた楽しい音楽の授業
鈴木明	梅園	体育	動きのよい子を育てる
太田宣宏	速尺	〃	一人ひとりの子どもが力いっぱい取り組むボール運動の指導
中野渡善樹	小豆坂	〃	一人ひとりが意欲的に取り組む体育学習
小田昌男	恵田道徳	〃	障害児と心を通い合わせる道徳授業
鈴木稔	雪広	特活	子どもの心の動きに依拠した創造ある活動
梅村京子	愛宕	〃	深まりのある学級会活動をめざして
八田敏公	連尺	視聴覚	個別化をめざすパソコンの教育利用
浅井君江	連尺	保健	受精卵から出発した私たち
加藤嘉代美	恵田教全	〃	自主的主体的学習を促す体験学習
高橋由美子	上地	〃	学級づくりを基盤とした合科学習
板倉登	木宿	生活	生活科は社会科を超えるか
野々山周次郎	南	国語	古典に親しませるための一実践
岡田豊	北	〃	確かな認識の力を育てる指導
杉田吉男	甲山	社会	人間の生き方にせまる社会科の授業の確立
木多成光	東海	〃	一人ひとりが国土認識を深める学習指導の工夫
加藤政幸	岩津	数学	問題づくりを生かし意欲を高める数学指導
山口直純	甲山	理科	生徒が生き生き活動する理科授業
畔柳とも子	城北	美術	自らの発想に基づき考えを発見し創造できる生徒の育成をめざして
伊藤友隆	甲山	体育	生気溢れる授業の確立
栗田錦治	葵	〃	一人ひとりを伸ばす体育指導
三浦みどり	葵	技術・家	時代の変化と食物領域指導のあり方
村松丈行	矢作	〃	粘り強く取り組み、生活に結びついた教材の開発
山本悟	東海	英語	眞の英語教育のあり方を求めて
山田禮子	北	図書館	読書の生活化をめざして
岡田要	葵	教全	生徒を育てる開かれた部活動をめざして

応募総数 496

小学校個人	281	中学校個人	128
小学校共同	52	中学校共同	35

佳作

氏名	学校名	氏名	学校名
明保恵子	美合	鈴木みえ	広幡
神尾美佐代	岡崎	酒井芳宏	城南
加藤由美子	連尺	兵藤知子	緑丘
足立尚子	広幡	長島洋子	木宿
菅沼和子	矢東	名倉嘉章	上地
倉橋正博	六北	笠美鈴	藤川
高橋紀子	小豆坂	渥美久美子	根石
三井智恵	三島相場	のり枝	恵田
加藤栄子	広幡	磯谷佳保里	岩津
岩附広行	井田	加納隆	竜美丘
前田康幸	木宿	藤井博子	常南
村井ちゑ子	常南	木間茂夫	六中
鈴木種春	大樹寺	島津江万喜子	常東
金指由香里	大門	丹羽郁人	福岡
杉浦卓次	矢北	高橋鏡二	矢作
山本誠	六南	鈴木彰南	南
高須亮平	三島	大西和夫	甲山
平任代	岩津	小川規博	竜海
谷川繁和	大樹寺	栗田万砂夫	葵
米澤泰史	六北	峰須賀涉	北
荻須文裕	美合	羽根淵一夫	美川
長坂寿子	綠丘	平岩浩文	城北
鈴木悟	六名	王田修義	北
小出光正	三島	酒井洋一	甲山
小倉敏幸	連尺	天野一良	北
森下恒夫	広幡	相川たくみ	河合
大柿峰樹	藤川	忠甲山	
滋野井貴子	山中	永田勲	東海
田口康幸	岩津	上原康雄	美川
土屋恵子	上地	杉山文子	竜南
鈴木薫	木宿	浅沼雅広	竜南
内田ひろみ	広幡	木多みどり	甲山
中村郁夫	男川	永井隆夫	葵
井野宏和	矢南	尾崎貴美子	常磐
佐々木雅彦	城南	武田正道	葵
藤井明美	連尺	小林秀樹	葵

●共同研究の部

最優秀賞

氏名	学校名	教・領	研究主題
特殊教育部会	緑丘	特殊	自然の中での教育をめざして
音楽部	竜南	音楽	個を生かす音楽学習

優秀賞

国語部会	岡崎	国語	書くことを通じて確かな読みを育てる
五年部会	大門	社会	学習の深まりや広がりを持たせる地域素材の教材化を求めて
算数部会	細川	算数	生活に生かす算数指導
六年部会	六北	理科	五感を働かせ納得する理科学習
図工研究部	矢南	図工	子どもの目が輝き続ける授業の創造
視聴覚教育部会	井田	視聴覚	たくましい体とゆたかな心を育てる
国語部会	常磐	国語	胸の高なりを覚える国語学習を求めて
数学部会	甲山	数学	生氣溢れる授業の確立
三年部会	東海	特活	一人ひとりに成績感を味わせ、逞しく成長する学年集団作りを通して
現職教育部会	甲山	教全	生氣溢れる授業の確立

佳作

氏名	学校名	氏名	学校名
国語部会	常磐	特殊教育部会	梅園
現職教育部会	矢東	生活科研究部	三島
二年部会	六北	国語部会	六ヶ美
三年部会	北野	数学部会	北
算数部会	常磐	体育部	葵
現職教育部会	藤川	体育部	竜南
理科部会	大樹寺	岡崎市現職教育	城北
高学年部会	上地	英語部	竜南

がすぐれた武将であることを確認できた。裏づけるとなるいくつかの事例をもとに話し合うことによつて。

本校では、「魅入る学習指導」をめざし、全校で学習指導の改善につとめている。本単元も、その一環として、具体物に乏しい、表面的な知識に流れがちな歴史学習に、「魅入る」要素を加えたいと考え設定したものである。限られた指導時間の中で、他の単元や領域とのバランスも考えながらの計画は難航したが副読本「岡崎」の活用と、松平氏・家康関係史跡の現地取材による自作資料でカバーすることにした。取材は、学区の小針城跡（阿部氏の旧跡）から、松平城跡まで、松平氏の発展のあとをさかのぼる形で行つた。現地では景観をビデオに収録し、授業で活用できるよう配慮した。

地域教材を活用した特設单元「松平氏と徳川家康」の学習中、生徒から出された「すぐれた武将の条件」である。本時の話合いは、「徳川家康は、本当にすぐれた武将であったといえるだろうか」という課題を解決するために進めていった。その過程で取り上げたいくつかの事件の中から探り出した「すぐれた武将の条件」が右の六項目であった。これを家康の行動と照合した結果、生徒たちは家康

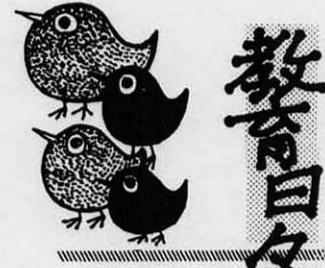
が家康の人生は、重荷を負て

遠き道を……」のことばは、家康の人生そのままだったんだうなあと思う。（U子）

こう一トに記したU子は、東照公遺訓の行間に、授業中に出てきた場面を見たことと思う。徒は一人歩きを始めることがわかった。

野菜づくり

六中小 石川 修



「野菜作りクラブに入つて、お母さんがいつも買つてくる野菜がどのようにして作られるのかよくわかりました。それと野菜を作つていてるお百姓さん、苦労して野菜を育てていることがわかり、野菜を大事にすることがわかったんだなあ。東照公遺訓の『人の一生は、重荷を負て

にするようになりました。（A男）

「野菜作りをして野菜の育ち方がよくわかり、成長する様子をわくわくしながら観察し続けました。特に、自分でつくった春菊や赤かぶを食べたくなり、いもがゆを作つたことが楽ししかつたです。（B子）」

野菜作りクラブの子どもが書いた作文の一部である。

今年度の四月から正課クラブの内容を一新した。これは、授業では学べないことを、正課クラブの時間を通して体験させたいという考え方から、決定したのだ。学区内のお年寄りから、わらじの作り方や伝承遊びを教えて頂くふるさとクラブなどがスタートした。

野菜作りクラブも、その一つとして誕生したのである。

本校の学区は、三十年前までは、菜種作りがたいへん盛んな農村であった。今では、菜種は見られなくなつたものの、田や畑が多く、心の休まる思いのする地域である。

しかし、子どもたちは、自分の家に畑があつても、畑仕事の手伝いをしない子がほとんどである。そこで、自分たちで種をまき、水をやり、草を取り、野



● 小学校において初任者研修が開始される。パソコンの研修をする初任者。

一年の あゆみ

9・23	8・30	8・22	8・18	8・7	8・1	7・27	7・23	7・21	7・20	5・21	5・14	4・18	4・1
・吹奏樂祭（岡崎市民会館）	・特選 县知事賞 大門小学校	・最優秀賞 野村 優子（常磐中）	・第11回少年の主張コンクール県大会	・準優勝 男子バスケットボール部 城北中学校	・優勝 陸上男子三種競技 三輪 典央（美川中）	・全国中学校選抜体育大会	・愛知県吹奏楽コンクール 中学校の部 金賞 竜海中学校	・愛知県吹奏楽コンクール 小学校の部 金賞 竜美丘小学校	・夏期実技講習会開始	・岡崎市小学校球技大会開始	・第42回岡崎市中学校市長杯総合体育大会開始	・第16回岡崎市民大学開講（岡崎市民会館）	・新規採用教員101名辞令伝達式
・新規採用教員101名辞令伝達式	・小学教育委員会総会（北中）	・現職教育委員会総会（北中）	・ニューポートビーチ親善使節団29名米岡	・第33回岡崎市中学校総合体育大会	・全日本学校関係緑化コンクール	・特選 学校環境緑化の部 常磐中学校	・ニューポートビーチ親善使節団5名米岡	・第3回岡崎市中学生の主張コンクール	・岡崎市小学校球技大会開始	・第27回小学校水泳大会（三島小）	・森岡 恵彦（7・23） 五木 寛之（8・5）	・神津カナン（8・19） 竹内 郁夫（8・26）	・堀内 守（9・2） 北出清五郎（9・16）
・愛知県吹奏楽コンクール	・准優勝 生平小学校	・最優秀賞 野村 優子（常磐中）	・第19回県鳥獣保護実績発表大会	・県教育委員会賞 城北中学校	・県知事賞 大門小学校	・県教育委員会賞 生平小学校	・第11回少年の主張コンクール県大会	・第1回少年の主張コンクール県大会	・第1回少年の主張コンクール県大会	・第1回少年の主張コンクール県大会	・第1回少年の主張コンクール県大会	・第1回少年の主張コンクール県大会	・第1回少年の主張コンクール県大会

▶少年の主張コンクール県大会において常磐中野村さんが見事、最優秀賞獲得。（8・22）

夏の各種競技大会にて本市中学生大活躍。美川中三輪君は三種競技で全国優勝。（8・18）



▶「みどりとふれ合い、みどりと学ぼう」大門小の緑化活動が県一となる。（8・30）



▶「みどりとふれ合い、みどりと学ぼう」大門小の緑化活動が県一となる。（8・30）





2	1	1	1	12	12	11	11	10	10	10	10	10	9	9	
20	28	27	17	8	25	9	2	23	18	11	3	29	27	26	
・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	・	
第2回岡崎市中学生呼和浩特市親善使節団出発	第10回市中学生姉妹都市友好訪問使節団出発	岡崎市教育委員に内藤美智子氏就任	第36回理科作品展（六名小）	第16回技術家庭科作品展（商工会議所）	第36回岡崎市民体育祭（六名公園グランド）	岡崎市町村合併35周年、人口30万人達成記念並びに交通安全推進小中学校音楽パレード	第22回岡崎市中学校新人総合体育大会	全国ジュニア五輪陸上大会	三位 男子四〇〇M R 竜南中学校チーム	第32回中学生英語スピーチフェスティバル（せきれいホール）	第39次愛知県教育研究集会（連尺小・城北中）	第28回岡崎市小学校陸上競技大会（県営グランド）	第26回造形おかざき子展（世界子ども美術博物館）	全日本中学校英語弁論大会 二位 永田克巳（矢作中）	第17回岡崎市教育文化賞授賞式
・	・	・	・	・	・	・	・	・	明保俊通氏 中村繁男氏 山田由太郎氏	・	・	・	・	・	
第25回読書感想文コンクール表彰式（太陽の城）	第17回岡崎のハーモニー（岡崎市民会館）	恵田小学校	自主教養大学	全国小中学校作文コンクール	文部大臣奨励賞 杉山晴彦（生平小）	学校体育賞授賞式（竜美ヶ丘会館）	朝日スポーツ賞受賞 前教育委員 矢田香子氏	第16回冬季研修会（少年自然の家）	月報「岡崎の教育」200号までの足跡	岡崎の教育の精神と歩みを伝える月報が二百号を達成。二百号記念特集号の発行（1・8）	月報「岡崎の教育」200号までの足跡	月報「岡崎の教育」200号までの足跡	月報「岡崎の教育」200号までの足跡	月報「岡崎の教育」200号までの足跡	月報「岡崎の教育」200号までの足跡
・	・	・	・	・	・	・	・	・	月報「岡崎の教育」200号までの足跡	月報「岡崎の教育」200号までの足跡	月報「岡崎の教育」200号までの足跡	月報「岡崎の教育」200号までの足跡	月報「岡崎の教育」200号までの足跡	月報「岡崎の教育」200号までの足跡	
は、堂々二位入賞。（11・11）	明保俊通氏 中村繁男氏 山田由太郎氏	明保俊通氏 中村繁男氏 山田由太郎氏	明保俊通氏 中村繁男氏 山田由太郎氏	明保俊通氏 中村繁男氏 山田由太郎氏	明保俊通氏 中村繁男氏 山田由太郎氏	明保俊通氏 中村繁男氏 山田由太郎氏	明保俊通氏 中村繁男氏 山田由太郎氏	明保俊通氏 中村繁男氏 山田由太郎氏	明保俊通氏 中村繁男氏 山田由太郎氏	明保俊通氏 中村繁男氏 山田由太郎氏	明保俊通氏 中村繁男氏 山田由太郎氏	明保俊通氏 中村繁男氏 山田由太郎氏	明保俊通氏 中村繁男氏 山田由太郎氏	明保俊通氏 中村繁男氏 山田由太郎氏	



▶ 全国中学校弁論大会に黒を代
表して参加した矢作中永田君
は、堂々二位入賞。（11・11）



岡崎の教育の精神と歩みを伝
える月報が二百号を達成。二
百号記念特集号の発行（1・8）

町村合併35周年・人口30万人達成を記念して行われた小中学校音楽
パレード。伝馬通りを中心に華やかな演奏を展開し、交通安全の推進
を呼びかけた。（10・14）

平成元年度の研究発表校

発表 月日	校名	分野	研究主題	研究概要	研究資料(研究物・講師・助言者)
6月9日	大門小	教育全般	自らの考えと思いやりをもって、生き生きと活動する子どもの育成 —地域を活かした学習指導—	生活科(試行)の実践的研究。地域素材を活かした単元構成と授業研究。地域での結びつきを考慮した学年のたて割りによる学校裁量時間の活用の研究。郷土資料の収集と郷土室の新設。	研究物 研究紀要、指導案綴 助言者 岡崎女子短大 内田松夫先生 奥殿小長 成田先生、美合小 杉浦先生、矢北小 菅沼先生、御津南小 田中先生、大樹寺小 梶尾先生
6月13日	上地小	教育全般	学級づくりを基盤とした学習指導 —生き生きと学習に取り組む児童の育成—	「自由で生き生きとした学級づくり／個への理解を深め、生き生きと活動する児童の育成／地域にも目を向け、教師の創意工夫による生き生きとした学習の展開」を柱に、心豊かに力いっぱいやる子の育成をめざした。	研究物 「学級づくりを基盤とした学習指導」「実践報告会の記録」 講師 元愛知県小中学校長会長 鈴木依治先生
6月23日	広幡小	教育全般	授業 —構造と展開と— —意欲ある活動・豊かな表現—	「構造」とは授業の理論的探究であり、「展開」とは授業実践そのものである、という考え方を基本として研究を進めた。 授業展開のなかでの意欲化をはかり、表現活動を伸ばす場、時、手だてを追究した。	研究物 研究紀要、学習指導案綴 分科会資料 講師 岡崎女子短大 内田松夫先生 助言者 青木宏氏先生 有我亮介先生 岩月慎自先生 山本慎夫先生
6月30日	竜南中	教育全般	個性を生かす教育 —個を知り個を育てる 授業をめざして— (市指定・中間報告)	教科指導を中心にして、生徒一人ひとりの特性・持ち味を知り、一斉授業のよさを生かしながら個に応じた指導を進めるために、指導の手だてと学習の場づくりを研究した。	研究物 研究紀要、指導案綴 指導助言 名大教授 安彦忠彦先生 分科会助言 各教科指導員 〃 司会 〃 世話係
10月13日	岡崎小	国語・算数	基礎的・基本的事項を重視した学習 —国語科・算数科—	国語は「書くことを通して確かな読みを育てる」、算数は「操作活動により筋道の通った考え方を育てる」を教科の主題に決め、学習指導案の作成、研究授業を中心に研究を推進した。ノート指導にも力を注いだ。	研究物 研究紀要、学習指導案綴 講師 岡崎女子短大 内田松夫先生 助言者 後藤彬先生 杉浦博司先生 藤井孝弘先生 柴田隆夫先生
10月20日	矢東小	作文指導	確かに豊かな表現力を伸ばす作文指導 —生活を見つめ書き綴る—	文章表現力を育てるためには、日常生活の中で、取材することと、文章を綴ることが大切であるという認識に立ち、いろいろな機会を捉え、書く場と発表の場を設定し、確かに豊かな表現のできる子を育てる研究。	研究物 作文指導年間計画 研究紀要 講師 大阪教育大学 藤井昭三先生
10月31日	藤川小	理科	自ら学ぶ意欲を育てる感動のある授業の研究 —理科学習における視聴覚教材の研究—	理科学習において、一人ひとりを生かす指導に力を入れ、学ぶ楽しさや達成の喜びを味わわせる。その手だてとして、児童の考える力を育てる「調べる・話し合う・書く」の三つの活動へ視聴覚教材を活用する工夫をした。	研究物 研究紀要、指導案綴、実践の記録 講師 愛教大 川上昭吾先生 助言者 市指導員 菅沼剛先生 市指導員 高木和広先生
11月10日	岩津小	教育全般	児童一人ひとりの自己実現をめざす教育 —めあてをもって仲間とともに励む子どもたち—	児童一人ひとりの自己実現を図るために、教科学習、心を豊かにする活動、読書活動、体験発表活動を中心にした実践研究。 教科学習では、一人ひとりのめあてを大切にし、主体的に取り組む児童の育成を図った。	研究物 研究紀要、学習指導案綴 いわづの里 講師 西三事務所 吉口正昭先生 司会 教科指導員 梶尾長夫先生
11月17日	常磐南小	教育全般	郷土に生きる常南教育 —「わかる、できる、創りあげる」喜びを知る子を—	郷土の自然の中での学習を中心とし、郷土の素材の開発から授業のあり方を探る。 ○郷土にある素材の教材化 ○発問のない授業 ○メディアの活用など、授業実践を通して推進をした。	研究物 「郷土に生きる常南教育」「常南の生物観察の手引き」 講師 筑波大教授 佐々木俊介先生
12月5日	常磐小	国語・算数	個を生かす授業	国語科「音読を通して物語文を豊かに読む」算数科「確かな考え方で意欲的に解く」をテーマに研究をすすめた。 子供たちに、物語文を豊かに読む態度や、意欲的に問題を解く姿勢が育ってきた。	研究物 研究紀要、指導案 講師 愛教大 甲斐睦朗先生 " 愛教大 柴田録治先生

お知らせ



中学男子

矢作北中が初優勝

第四十一回市民駅伝

一月二十八日、六名公園を発着点に市街地を一周する三十キロコースで開かれ、中学校は十三チームが参加した。

レースは、矢作北中がスタートから独走。九区間中、四区間で区间賞を飾る力走で、初優勝に輝いた。

・優勝 矢作北 A

(一時間三十二分四十三秒)

△二位 竜海 A

(一時間三十二分二十五秒)

△三位 常磐 A

(一時間三十三分十一秒)

△四位 竜南 A

(一時間三十四分三十六秒)

△五位 東海 A

(一時間三十四分五十四秒)

△六位 矢作 A

(一時間三十四分五十四秒)

最優秀 優秀 久留宮 桦(竜谷小4)
中根美代子(甲山中2)

■第十七回人権を理解する作品
コンクール 習字の部

山中小が奨励賞を受賞した。

■東海三県学校図書館奨励賞
全国大会四位 矢作中学校

佳作 岡崎のハウス団地
中部日本決勝大会 最優秀賞

優秀賞 ふれあい
雅楽伝承

優秀賞 ごみはどこへ
高齢化社会を考える

優秀賞 Welcome to our class!

優秀賞 受賞すると共に、応募した七作品が全て入賞した。

最優秀賞 矢作川と指標生物
平成元年度当コングルールで最優秀賞を受賞すると共に、応募した七作品が全て入賞した。

最優秀賞 矢作北中がスタートから独走。九区間中、四区間で区间賞を飾る力走で、初優勝に輝いた。

九区 菅田 三昭(矢作北)
八区 和出 尚希(矢作北)
七区 伊藤 英治(矢作北)
八区 稲吉 丈生(常磐)

九区 菅田 三昭(矢作北)
八区 和出 尚希(矢作北)
七区 伊藤 英治(矢作北)
八区 稲吉 丈生(常磐)

九区 菅田 三昭(矢作北)
八区 和出 尚希(矢作北)
七区 伊藤 英治(矢作北)
八区 稲吉 丈生(常磐)

九区 菅田 三昭(矢作北)
八区 和出 尚希(矢作北)
七区 伊藤 英治(矢作北)
八区 稲吉 丈生(常磐)

九区 菅田 三昭(矢作北)
八区 和出 尚希(矢作北)
七区 伊藤 英治(矢作北)
八区 稲吉 丈生(常磐)

区間賞

■八九全国中学生パソコンソフ

トコンテスト 優秀活動賞

矢作中学校パソコン部

矢作北小(全教科領域)

恵田小(全教科領域)

梅園小(音楽)

竜南中(全教科)

奥殿小(国語・算数)

山中小(国語)

美川中(コンピュータ教育)二十一年度

竜美丘小(全教科領域)

緑丘小(国語・作文)

大門小(全教科領域)

矢作南小(全教科)

矢作北小(全教科領域)

恵田小(全教科領域)

梅園小(音楽)

竜南中(全教科)

奥殿小(国語・算数)

山中小(国語)

組織部長 近藤博之(葵)

教文部長 板倉 登(本宿小)

情宣部長 伊藤直也(矢作中)

福村部長 伊藤友隆(甲山中)

調査部長 酒井芳宏(城南小)

会計委員 平岩浩文(城北中)

青年部長 鈴木 明(梅園小)

婦人部長 鶴田紀美子(常磐中)

組織部長 酒井芳宏(城南小)

会計委員 平岩浩文(城北中)

青年部長 鈴木 明(梅園小)

婦人部長 鶴田紀美子(常磐中)

組織部長 酒井芳宏(城南小)

会計委員 平岩浩文(城北中)

青年部長 鈴木 明(梅園小)

婦人部長 鶴田紀美子(常磐中)

組織部長 酒井芳宏(城南小)

会計委員 平岩浩文(城北中)

青年部長 鈴木 明(梅園小)

婦人部長 鶴田紀美子(常磐中)

組織部長 酒井芳宏(城南小)

会計委員 平岩浩文(城北中)

青年部長 鈴木 明(梅園小)

婦人部長 鶴田紀美子(常磐中)

組織部長 酒井芳宏(城南小)

会計委員 平岩浩文(城北中)

青年部長 鈴木 明(梅園小)

婦人部長 鶴田紀美子(常磐中)

組織部長 酒井芳宏(城南小)

会計委員 平岩浩文(城北中)

青年部長 鈴木 明(梅園小)

婦人部長 鶴田紀美子(常磐中)

組織部長 酒井芳宏(城南小)

会計委員 平岩浩文(城北中)

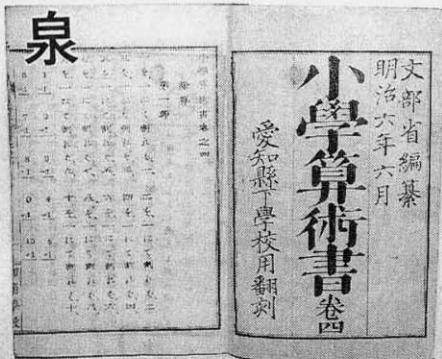
青年部長 鈴木 明(梅園小)

婦人部長 鶴田紀美子(常磐中)

組織部長 酒井芳宏(城南小)

会計委員 平岩浩文(城北中)

青年部長 鈴木 明(梅園小)



連尺小学校

明治6年の 小学算術書



*傑作の条件	向井 敏
文芸春秋	¥1500
*ガラスの地球を救え	手塚治虫
光文社	¥ 820
*新訳・からだ事典	渡辺淳一
集英社	¥1300
*子供部屋の孤独	中村文夫
学陽書房	¥1350

*現代流行本解体新書	谷沢永一・渡部昇一
P H P 研究所	¥1300

読書対談集が、多くの読者をひきつけるようになったのは、昭和50年代の半ばからであろう。谷沢・渡部両氏の『読書連弾』・『読書有朋』は、本の楽しさを縦横に語り、尽きせぬ魅力があった。

今回の対談集は、1980年代のベストセラーの中から、33冊を組上にのせ、鋭い分析と絶妙な語り口で、本との「つき合いで」を示唆してくれる良書である。

経済や技術をめぐる「固い本」に比重がかかるところは、時代の反映か。

シ
オ
ス
ア

巣立ちの季節である。市内小中学生一万人近くが三年間、六年後と思いつ出を胸に母校を後にする。この時期は、教職に身を置く人々として、月報はどうか。読み手と書き手の間に「あうんの呼吸」を息づかせたい。

明治五年、「学制発布」が行われ、初めて教科書という用語が生まれた。内容は、欧米の学校教科書教材の翻案が主なものであつた。編集・出版・普及は、文部省と師範学校が中心となつて行つた。

ここに取り上げた「小学算術書」は、明治六年六月に出版されたものである。日本で最初に使われた算数の教科書であると思われる。中表紙に「愛知県下学校用翻刻」とあり、原本を版木に刷りこみ和紙に印刷してある。二つ折りにされた用紙の中央に

は「師範学校」とあり、裏表紙に製本は名古屋と記されている。

当時の小学教則概表によれば小学校八年間の内どの学年(当時は級)においても学習する教科は、算術のみであった。写真の本の内容は、除算が大部分であり、縦書きになつていて、しかも除算の説明に「九九」は使われていない。

その後、教科書は、明治十九年に検定制、明治三十六年には国定制となつた。第二次大戦後は再び検定制となり、現在に至つてはいる。

福岡小六名小

本田繁子 健

新芽をつけた校庭の樹木に春の息吹を感じる。長い冬を耐えぬき、春の日ざしを受けた木々は、着実にふくらみを増している。新芽がすくすくと育つていくように、卒業していく子供たちが、苦しみや困難に負けることなく、力強く生きぬいていくことを願わざにはいられない。

この時期は、教職に身を置く人々としては一番充実感を味わうことができる時である。苦しみ、悩み、全力投球すればするほど、その感激は強い。

校塔に鳴き声日や卒業す 中村草田男

・表紙写真
・表紙詩
・カット